

発行所 毎日新聞社
東京本社 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
100-8051 電話(03)2712-0021
大阪本社 大阪市北区梅田3-4-5
550-8251 電話(06)6345-1551
西部本社 北九州市小倉北区福岡1-1-1
800-8451 電話(093)541-1131
中部本社 名古屋市中村区名駅4-7-1
450-8051 電話(052)521-0000
北海道支社 札幌市中央区南一条西6-13
060-8643 電話(011)221-4141

THE BRAILLE MAINICHI.

点字毎日

活字版

毎日新聞社

1年12,856円(本体11,904円、消費税952円)
半年6,428円(本体5,952円、消費税476円)
毎日新聞社点字毎日部
電話06-6346-8386(編集)/8388(営業)
FAX06-6346-8385/留置口0930-0-450
〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社内

第1012号(点字版4887号対応)

毎週木曜日発行

平成10年5月25日(第3種郵便物認可)年間訂閲料5,000円

2018年(平成30年)
4月19日 木曜日

7 2018年(平成30年)4月19日(木曜日)

点字毎日活字版

(第3種郵便物認可)

開発のきっかけは、同社に「信号機を見つづけるのが大変」と弱者から意見が寄せられたこと

弱視者にも見やすい信号装置がある。「高齢者・視覚障害者用LED付き音響装置」。高さは地面から1メートルと低く、横断歩道の手前に設置される。装置の両面にLED(発光ダイオード)が付いていて、既存の歩行者用信号機と連動して赤と緑のライトが切り替わって点灯する。視覚障害者用の誘導音も鳴る。使われているのは大阪府、和歌山県、愛知県、岩手県、福島県の十数カ所と今のところ少ないが、事故防止につながるとして他の地域でも設置を望む弱視者は多い。

製造しているのは、大阪市内の電機機器メーカーで、簡型の音響信号装置を手掛けてきた篠原電機。職員の兼崎さんは開発から携わってきた。営業も担当し、体験会の企画も任されている。システムの設計や装置の組み立ては他に専門家がおり、兼崎さんは利用してくれる視覚障害者と会社を結ぶ。自然と役割分担ができた。装置の説明に全国を飛び回り、47都道府県一巡まで、あと三つ。「また来てほしい」と頼まれることもあり、「もう一つ体がほしくらい」と喜ぶ。

「自分の無知をさらすように抵抗はあった

と。新規事業を企画して進める部署の新設というタイミングでも重なる。「会社を支える事業者に自分たちの手で育てていこう」との意気込みはあったが戸惑いも大きかった。視覚障害者と接したことがなかったから。視力が低いと遠くのものが見えにくいことは想像できたが「信号機を見つづける」ということが分らなかった。自分から意見を寄せられたこと

見やすい信号機の普及に奔走

支える人

兼崎 曉美さん(68)



設置について説明する兼崎さん(右)
—大阪市内で

が、分からないことは聞くしかない。当事者に聞いて回った。その結果、弱視者にとって横断歩道がいかに緊張を強いられる場所かと初めて気付いた。歩行者信号があるのは横断歩道を渡った側。視野の狭い人だと、まず自分の足元から横断歩道の端を順に目で追って、渡った側にある信号機の柱の根元を見つめる。そこから視線を頭上へと動かして赤や緑に光っている箇所を見つめる。一度、視野から外れたら探すのは難しい。誘導音の鳴らない場所はより危険だ。周りの人が動き出した気配を感じ

必要としてくれる人へ

「プロフィール」92年に入社。定年退職後も参事として装置の普及に力を尽くしている。趣味はゴルフと旅行。最近ではマラソンに挑戦している。

それならばとライトを横断歩道の手前に置いた。ライトは上下に並んでいて、上は四角い形で赤色に、下は丸い形で緑色に光るようにした。表示の仕方とも「線よりも面の方が見やすい」という意見を生かした。「赤は四角く、青は丸く光る」と覚えておけば、色の判別ができないう人も分かる。体験会を開いたとき、子供連れの女性から「この高さなら子供も信号を見つづける」と言われたり、車いす使用者にも喜ばれたりしたことは意外だった。

たくさん売れるものではないのかもしれない。だが必要としてくれる人がある。装置を体験した弱視者からは、よくこう言われる。「長く続けてほしい」。何よりの励まし言葉だ。普及には警察や自治体の判断が大きい。弱視者ら、設置を望む人の声を高めた。使ってもらえれば、良さは分かってもらえるとの自信はある。視覚障害者をはじめ、眼科医からも設置を後押ししてもらえたらと期待する。

【平井俊行】